

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第1回上越市立図書館協議会

2 議題等(全件公開)

(1) 任命書交付

野澤教育長による各委員への任命書手交

※欠席委員には、後日事務局より任命書を送付

(2) 正副委員長の選出

上越市立図書館条例施行規則（以下「規則」という。）第20条第1項の規定に基づき、互選の結果、

委員長に、小埜委員

副委員長に、丸山委員

を選出。

(3) 協議

ア 平成30年度図書館事業の実施報告・決算報告について (資料1、2、3)

イ 令和元年度図書館関係予算の概要及び事業計画について (資料4)

ウ その他

3 開催日時

令和元年6月27日(木) 午前10時30分から正午まで

4 開催場所

上越市立高田図書館1階 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

・委員：上原委員、内田委員、大堀委員、小埜委員、河村委員、高野委員、田中委員、丸山委員、柳沢委員

・事務局：野澤教育長(挨拶の後、公務のため退席)

社会教育課 加藤副課長、内藤高田図書館長、布施副館長、丸山上席司書、

佐藤係長、柴山直江津図書館長、横手副館長、内山上席司書

7 発言の内容（要旨）

<上越市立図書館条例施行規則第18条2項の規定により小笠委員長が議長となる>

○平成30年度図書館事業の実施報告・決算報告について

事務局 : 別紙資料1、2、3により概要説明

議長 : 議題として決算報告が上がっていたが、この説明はないのか。

布施副館長 : 事業実績については説明のとおりであるが、決算額については、9月の議会前であり、今回は省略させていただきたい。

丸山上席司書 : 頸城分館のインターネット利用件数について、補足説明させていただく。利用件数が大きく減っているのは、インターネット閲覧端末更新の都合により、平成28年度中に端末設置の空白期間ができたことと、それまでは独立したインターネット閲覧端末だったものが、更新後は蔵書検索端末と兼用になったため、減少しているものである。

丸山副委員長 : 頸城分館の利用が伸びているという報告があったが、その要因は何か。

内藤館長 : はっきりとした根拠は不明であるが、直江津図書館の駐車スペースが工事のため利用しにくい状況にあるなかで、頸城分館には広い駐車場があり、比較的、直江津に近いということもあって、普段、直江津を利用されている方が、予約された本などを頸城分館で借りているのではないかと考えている。

議長 : 貸出者数というのは延べ数か。

内藤館長 : 延べ人数である。同じ利用者の方が、週に2回利用すれば2人とカウントしている。高田図書館では、貸出者数は、平成30年度は前年度を上回って利用されており、また、平成28年度、平成27年度と比べても増えている。ただ、貸出冊数については、いまひとつ伸びが足りないというところである。

議長 : どういうところで利用が伸びているのか。

内藤館長 : インターネットからの本の予約冊数が伸びている。また、新たな利用者の開拓にも努めている。本の貸出期間は2週間だが、期限とは関係なく、毎日のように図書館に足を運んでいる利用者もあり、そういうところで利用者が伸びているのではないかと考えている。

議長 : 端末が足りないということはないか。

内藤館長 : そういうことはない。インターネットからの予約が増えたといっても、

電話での問い合わせや、来館しての問い合わせも多くある。ただ、スマートフォンからも本の予約ができるようになっており、図書館のホームページでの案内が少しずつ浸透してきたのではないかと。

議長 : 資料1のインターネット利用件数が増えているなかで、図書館内でインターネット検索ができる端末は十分にあるのか、ということを開きかけた。

丸山上席司書 : インターネット検索ができる端末は、高田図書館がデータベース・デジタル化新聞閲覧端末含め3台、直江津図書館が4台、浦川原分館、頸城分館がそれぞれ1台ずつである。浦川原分館、頸城分館については、蔵書検索と兼用であるため、インターネット検索での利用は少なめである。台数が一番多い直江津が利用件数も一番多くなっている。

大堀委員 : 障害者サービス利用者数について、直江津図書館がずっと0件になっているのはどういうことか。

内山上席司書 : 障害者サービス用の録音図書はすべて高田図書館が持っているため、直江津図書館での貸出がない状況である。まれに、直江津図書館に貸出申し込みが寄せられることもあるが、申し込みのあった録音図書は高田図書館から利用者の自宅に直接郵送されることがほとんどであり、直江津図書館からの貸出としては0件となっている。

議長 : 資料2の事業報告について、3ページ目に学校支援の報告がある。学校図書館や学校現場と公立図書館との連携がずっと言われ続けている。そのことについて、少し補足をお願いしたい。利用は増えているのか。

内藤館長 : 学校等にも働きかけをしているところであり、来月7月にも学校司書の集まりがあるので、その席で図書館の利用について説明させていただく予定にしている。先日も直江津南小学校の生徒が、通常は直江津図書館を利用しているが、高田図書館を利用する機会がないということで、学校で引率して来館したことがあった。また、三和区の上杉小学校1年生が来館し、当初、本を借りる予定はなかったものの、生徒からの要望があって、1人1冊ずつ借りていったこともあった。また、上越市立歴史博物館の見学に合わせて、図書館にも足を延ばしてもらうことができれば、一度に二つの施設を見学できるので、博物館とも協力しながら取り組んでいるところである。

柴山館長 : 直江津図書館では、直江津中等教育学校と直江津中学校の生徒の利用が多い。貸出件数に直接結びついているとは言い難いが、試験前になると多くの生徒が学習席を利用している姿がある。特に、直江津中等教育学校では、地域の方との話し合いの場を設けており、そこで直江津図書館の利用方法などに要望が出されることもある。そういった要望に応えられるよう、できることは手を尽くしていきたいと思っている。

議長 : 今の話は、資料の学校支援の項目には数としては出ていないものの、大切なことだと思う。小学生、中高生の居場所として図書館がどう機能しているのかが見えるといいと思っている。報告のなかで、事業のなかには参加人数が少ないものの、継続的に実施している事業があるようだが、事業についての総括的な課題は何か。

内藤館長 : 事業がマンネリ化してくれば、参加者が限られた人数になりかねないので、企画段階から図書館関係課や市役所各課と協力して事業を行うことを考えている。秋に予定されている文化会館の自主企画とのタイアップも考えているところである。また、季節の行事に合わせた催しということも意識している。例えば、この時期は七夕かざりを用意しており、本を借りた子には、短冊を渡して自由に願い事を書いて飾り付けてもらっている。これにより、七夕かざり用の折り紙の本の貸出にもつながっている。

議長 : 図書館には本があり、情報がある。情報は本の中にあるわけで、それをどのように読みたい人に伝えていくかが活動であり、事業になってくると思う。読み聞かせや、ブックリストなどもこれにあたると思う。ある図書館では、本に書かれた情報をただ伝えるだけでなく、その情報を加工したり、実際に作ったり、実現できるスペースまで用意している。パソコンや3Dプリンターなどを設置し、情報を発信したり、物を作ったりということまでやっていこうとしている。本に書かれた情報をどのように持ち出して社会に発信していくか、そこまで事業として展開している図書館もある。それでは続いて、資料3について、ご意見をいただきたい。目標値とその達成度を見る資料である。人口減のことを考えると、今後の目標値の設定も難しいところがあると思

うが。

内藤館長 : 一時期、市内の出生児童数は年間約 1,500 人くらいだったこともあるが、現在は約 1,300 人程になっており、年間で 200 人近くの子どもが生まれなくなっている。子どもに向けた取り組みの拡充も必要だが、親が本を読まなければ、子どもたちに本を読んでもらう習慣がつかないと思っている。そこに力を注がなければという思いで、子ども読書推進計画（第 3 次）を策定し、取り組んでいこうとしているところである。

議長 : 目標というは一番目につく数値である。その数値に対する取り組み方として、資料 4 の令和元年度の事業計画のところ、どのようにして目標を達成していくのかが出てくることになると思っている。

大堀委員 : 学校等の教育施設への団体貸出というのは、具体的にどのようにして貸出を行っているのか。

丸山上席司書 : 学校から、この授業に合わせてこの関係の本が借りたいという依頼があって貸出する場合と、朝読書などで使いたいので各学年〇冊ずつ用意して欲しいという依頼を受けて、図書館側で本を集めて貸出する場合がある。また、先生が直接来館して学校名義で借りていくこともある。

○令和元年度図書館関係予算の概要及び事業計画について

事務局 : 別紙資料 4 により概要説明

合わせて、先に概要説明した資料 3 のなかから、第 2 次総合教育プランの令和 2 年度以降の目標値について、ご意見、アイデアをいただけないかと提案

丸山副委員長 : 障害者サービス事業について、高田図書館には視覚障害者向けの録音図書があるが、資料 4 に全国の点字図書館と協力すると記載がある。全国から録音図書の貸出の希望があれば応じているということか。

内藤館長 : 国立国会図書館からそういったサービスへの登録は可能かという問い合わせがあり、現在せつかく作成してもらった録音図書を活用するために登録を検討している。「国立国会図書館視覚障害者用サービス」への全面的な加入は作業量から難しいが、「障害者用データ送信サービス」の「録音データの提供のみ」の範囲で協力は可能と考えている。

議長 : 実際に貸出したことはあるか。

内藤館長 : 未登録ではあるが、他の図書館から直接問合せがあった場合に貸出すことはあった。

丸山副委員長 : よく評価の指標として数値目標を目にするが、子どもの数も減っているなかで、子どもの本の目標で右肩上がりの数値目標を作って、それを達成するために子どもたちに読書をあおるような目標だとすれば考え直していかなければと思っている。例えば、子ども全体のうち、読書に親しんでいる子どもがどのくらいいるかという目標があってもいいと思う。

内田委員 : 貸出冊数の中には、視聴覚資料や雑誌の貸出も含んでいるのか。

丸山上席司書 : 貸出冊数の中には、視聴覚資料、雑誌、紙芝居、いずれの貸出もすべて含まれている。

内藤館長 : 目標値の考え方については二つあり、子ども読書活動推進計画を策定したのだから、子どもの読書にターゲットを絞った目標にするというのが一つ、一方、子どもに限らず大人も含めた図書館全体の利用を見据えた目標を作った方がいいという考え方もある。そのあたりもご意見をいただけるとありがたいと思っている。

丸山副委員長 : 図書館は、市民の憩いの場所としての機能もあると思われるので、そういった観点からの評価、目標があってもよいのではないか。

議長 : 資料3にある第2次総合教育プランのなかで、施策の展開として、4つの施策が載っており、これを見据えて、それぞれの目標値を設定できればよいのではないか。細やかな目標設定ができれば、その図書館が挑戦的にこれからの図書館づくりを考えていくという姿勢を表すことにもなると思う。もちろん、目標に縛られることもあろうかと思うので難しいところではあると思う。今日、いただいたご意見をもとにして、まとめる必要はあるのか。

内藤館長 : その必要はない。いろいろなご意見を伺う場だと考えている。

内田委員 : 図書館の利用の仕方として、新聞を読みに行ったり、待ち合わせに使ってその間に雑誌を読んだりという使い方もしているが、こういう使い方が数字に入らないのはもったいないと感じる。

議長 : 来館者数は測れているのか。

内藤館長 : 図書館の玄関を通った入館者数はカウントしている。ただし、観桜会時の入館者数もカウントに入っているため、4月が突出して多いという状況である。新聞や雑誌の館内の閲覧者というのは集計には入っていない。

議長 : 新潟県内の他の図書館でもいろいろな数値目標を設定していると思われるので、それらと比較しながら上越市の目標を考えていく必要もあるのではないかと。

内藤館長 : 数値目標の設定については、わかりやすさも必要だと思っている。県下の図書館や、同じ規模の図書館と比べて上越市がどれだけ頑張っているのかがわかる数値として、やはり利用者数と貸出冊数は必要だと感じている。これまでにいただいたご意見をもとに、目標値を考えていければ一番いいと考えている。

大堀委員 : 子ども向けのおはなし会が非常に多く開かれているが、大人向けの朗読会のようなもので、気軽に参加できる催しがあれば、年に数回の開催でも、それをきっかけに図書館に足を運ぶ方も出てくるのではないかと。

内山上席司書 : 直江津図書館で、大人のおはなし会を開催したことがある。参加者数でいえば寂しい結果になった。ただ、続けていくなかで定着していくということもあると思うので、今年度、何回か行って様子を見たいと考えている。

高野委員 : 以前、直江津図書館で開催した大人のおはなし会を聞きにいったことがある。ただ、1回きりでは予定が合わなければもう参加できないので難しいと感じる。毎週、土曜日のおはなし会でも、子どもたちは来たり来なかったりということがあるので、ぜひ続けてもらいたいと思っている。あと、効果音を入れてみるなどの工夫があってもよいと感じた。

○ その他

布施副館長 : この図書館協議会は年3回を予定している。次回は10月または11月の秋頃、第3回は2月頃を予定している。

各委員 : 了解。

8 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料もあわせて参照ください。